

## 本調査結果を受けて（学長コメント）

このたび調査委員会から、信州大学在籍の研究者の研究活動上の不正行為の有無に係る調査について、不正行為は認められなかったとの報告を受けました。

しかしながら、調査対象となった研究者3名は、実施した実験内容が初期段階のものであったにもかかわらず、確定的な結論を得たかのような印象を与える発表を研究成果報告会やマスメディアに対して行っていました。調査委員会から信州大学に対して、こうしたことが起こってしまった原因として研究者間の十分な意思疎通を欠く研究姿勢に問題があったとの指摘を受けました。当該研究者3名に対しては、それぞれの役割分担・責任を踏まえてこうした混乱を招いてしまったことについて猛省することが求められると同時に、今回の研究結果の発表に対して、適切な修正を行うことが求められました。本学といたしましては、調査委員会からのこうした指摘を重く受け止め、3名の研究者には調査委員会から求められた事項の履行を申し渡しました。

また、本学に対しては、調査委員会から、こうした事態の再発を未然に防ぐための5つの提言をいただきました。本学といたしましては、これらの提言を真摯に受け止め、速やかに具体的な対策を講じるとともに、研究活動上の行動規範の更なる徹底を図ってまいります。

平成 28 年 11 月 15 日

信州大学長 濱田 州博